

普及活動現地情報

「農業現場では、今」

平成 29 年 10 月号



【東牟婁振興局】10/11～12 重点プロジェクト【6次産業化による地域の活性化】
～三津ノ地域活性化協議会が加工業務用葉ネギ試験圃を設置～

和歌山県農林水産部経営支援課
(農業革新支援センター)

はじめに

普及活動現地情報は、普及指導員等が行う農業の技術普及、担い手育成、調査研究、地域づくり等の多岐に渡る現場普及活動や、運営支援を行っている関係団体の活動、産地の動向等、その時々々の旬な現場の情報をとりまとめたものです。

それぞれの地域毎の実情に応じて、特徴ある普及活動を展開していますので、是非、御一読頂き、本情報を通じて、普及活動に対する御理解を深めて頂くと共に、関係者の皆様にとって、今後の参考になれば幸いです。

また、本情報については、カラー版（PDF ファイル）を和歌山県ホームページ内（農林水産部経営支援課：アドレスは下記を御参照下さい。）に掲載しており、過去の情報も閲覧出来ますので、併せて御活用下さい。

和歌山県農林水産部経営支援課ホームページ 普及現地情報アドレス

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070900/hukyu/>

検索サイトより、以下のキーワードで御検索下さい。



< 目 次 >

頁数

I 海草振興局	1 - 2
1. 新規就農者向け（野菜）研修会を開催！！	
2. 小学生を対象に稲刈り体験学習を実施	
II 那賀振興局	3 - 4
1. 嶋丸長桃出荷組合がエコファーマー再認定を申請	
2. 第4回郷土食カフェを開催	
III 伊都振興局	5 - 8
1. 「刀根早生」の摘蓄省力技術実証で収量調査を実施	
2. 小学生を対象に柿に関する食育推進 柿の体験学習、始まる。 ～渋柿でも甘い柿～	
3. わかやま健康と食のフェスタ 2017 で柿料理を啓発	
4. 橋本市立高野口小学校で「柿の出前授業」を実施	
IV 有田振興局	9 - 10
1. みかんの収穫期の労働災害防止キャンペーンを開催！	
2. 梅「露茜」栽培検討会を開催！	
3. 保田小学校児童がみかんの収穫体験	
V 日高振興局	11 - 14
1. 印南町農業士らによる稲作体験を実施	
2. 日高川町新果樹研究会が現地研修会を実施	
3. 由良町農業士会が町内小学校・こども園に「ゆら早生」を贈呈	
4. 日高地方生活研究グループ連絡協議会が 「日高の海と山を味わう会」を開催！	
5. 美浜町立和田小学校で梅・みかんの出前授業を実施	

Ⅵ 西牟婁振興局 **15-17**

1. 西牟婁地方生活研究グループ連絡協議会がリーダー研修会を開催
2. 茶の秋整枝研修会を開催
3. 女性起業支援研修会を開催

Ⅶ 東牟婁振興局 **18**

1. 重点プロジェクト【6次産業化による地域の活性化】
～三津ノ地域活性化協議会が加工業務用葉ネギ試験圃を設置～
2. 農業機械安全研修

Ⅷ 農林大学校 **19**

1. 農学部1年生が試験場研修と販売研修を実施

Ⅸ 農林大学校 就農支援センター **20**

1. 平成29年度技術修得研修（第2班）開講
2. 平成29年度ウイークエンド農業塾 農業入門コース（第2班）閉講

I 海草振興局

1. 新規就農者向け（野菜）研修会を開催！！

10月25日、農業試験場（紀の川市）において、5年以内の就農者を対象とした研修会を開催し、6名が参加した。

今回のテーマは「土壌診断と野菜の土づくり」で、野菜栽培者に限らず、果樹栽培の新規就農者も参加した。

研修の内容は、作物栽培にあたっての土づくりの重要性、土壌診断結果の見方、その後の対策方法等で、参加者からは、「普段なかなか土づくりのことを勉強する機会がないので参考になった。今後も色々な研修を受講してみたい」との声があった。

研修後は、イチゴ・トマト・ストック等の試験ハウスを見学した。

農業水産振興課では、今後も少しでも多くの新規就農者が参加でき、経営・技術向上の場となるよう研修会を企画開催していく予定。



講義の風景



試験場内見学

2. 小学生を対象に稲刈り体験学習を実施

農業水産振興課では、小学生等を対象に農業や食べ物への関心、大切さを感じてもらうため、体験学習等の指導に取り組んでいる。

今年度は和歌山大学教育学部附属小学校5年生97名を対象に、和歌山市梅原の貴志正幸氏水田において、6月15日に田植え、7月14日にアイガモの観察と農業機械の見学を行い、10月13日には収穫体験を実施した。

収穫体験では、最初に園主から稲刈りの仕方と白米にするまでの作業等の説明を受けた後、3人一組になって稲を刈り、4~5株をまとめて束ね、天日乾燥させるための「はざかけ」をした。子供達は、お米を無駄にしないよう落ち穂も拾い集めた。この体験学習の感想として「機械を使わずに稲を刈るのは大変」との声があがっていた。

今後、家庭科の学習時間に今回収穫したお米の実食を行う予定で、その機会に生徒の理解度を把握するとともに、先生の評価を確認し、さらなる体験学習の内容充実につなげていきたい。



貴志氏から説明



稲刈り体験

Ⅱ 那賀振興局

1. 嶋丸長桃出荷組合がエコファーマー再認定を申請

10月16日、農業水産振興課は、嶋丸長桃出荷組合（浦雅博代表）の組合員に対し、エコファーマーの再認定の説明会を行った。生産者9名、JA営農指導員、普及指導員が出席した。

組合では、平成14年に組合員全員がエコファーマーを取得するなど、桃栽培において、たい肥の施用や減農薬等の環境保全型農業に取り組んでいる。

説明会では、エコファーマーの再認定手続きについて普及指導員から説明した後、組合員は過去5年間の生産実績を検討し、所得の向上を目指すなど新たな計画の作成に熱心に取り組んでいた。

那賀管内のエコファーマーの人数は高齢化の影響もあり近年減少傾向にあるが、農業水産振興課では環境と調和のとれた農業生産を図るため、今後も環境保全型農業の普及推進に取り組んでいく。



説明会の様子

2. 第4回郷土食カフェを開催

10月19日、那賀地方生活研究グループ連絡協議会（坂口富子会長）は「第4回郷土食カフェ」を県植物公園緑花センターで開催した。

この取組は、地産地消の推進と農産加工グループの活動PRを目的に、農業水産振興課とともに3年前から実施している。当日は、郷土食のランチの提供と加工品・農産物の販売を行った。また、会場内では管内の有機農業の取組を紹介するパネルや、農産物の展示も行われた。

ランチの献立は会員自ら考案し、調理も行った。押し寿司（ちらし寿司）、じゃこずし、クレソン入り卵焼き、柿なます、ねごろ大唐巻き、くるみ餅、桃のゼリーなどの段重ね風のお弁当にクレソン入りおみそ汁、みかんを添えた計16品を提供した。

管内のみならず和歌山市内など多くの消費者から予約があり、予定の150食を完売することができた。参加者の方からは「子供の頃に食べた料理を思い出して良かった」「優しい味付けでほっとした」などの感想がでるなど好評であった。また、加工グループの加工品販売も好評であった。

直接消費者とふれあうことで、郷土食の传承活動・地産地消の重要性をあらためて認識する貴重な機会となった。



計16品の郷土食ランチ



カフェの開催風景

Ⅲ 伊都振興局

1. 「刀根早生」の摘蕾省力技術実証で収量調査を実施

農業水産振興課では、九度山町内の柿「刀根早生」園地において、摘蕾省力技術の実証を行っている。本技術の収量への影響を検討するため、9月25日から10月11日にかけて、処理樹の収量調査を実施した。

実証技術は、剪定時に結果母枝の先端芽を切り返して結果枝を減らすことで摘蕾作業を省力化するもので、同様の処理を行った前年には収量が2割程度減少したことから、今年は摘果をごく軽く行い着果量の確保に努めた。調査の結果、1果重、結果母枝あたりの収量とも慣行法に比べて同等であった。一方で、処理樹の樹勢がやや強くなる傾向がみられた。

当課では、今後連年処理の影響を検討した上で、本技術の普及に努めていきたい。



果皮色を確認しながら収穫



処理区ごとに収量を調査

2. 小学生を対象に柿に関する食育推進

柿の体験学習、始まる。 ～渋柿でも甘い柿～

伊都地方では毎年10月、11月に、特産の柿をテーマに小学生を対象にした「柿の体験学習」を行っている。今回は10月10日の和歌山市立楠見小学校を皮切りに伊都管内、和歌山市、大阪府守口市の小学校26校で実施する。

運営は伊都地方農業振興協議会（市町、JA、農業共済、振興局で構成）で実施し、協議会のメンバーが小学校に出前授業を行っている。本取り組みは、平成13年度からスタートし、本年で17年目となり、平成28年度までに訪れた小学校はのべ307校（対象児童数：約16,200人）である。

体験学習の内容は、「柿のお話」、試食、そして10月は渋抜き体験を実施。「柿のお話」では、和歌山県が日本一の柿産地であることや、柿農家の作業、加工・流通等について、クイズも交えて楽しみながら学んだ。試食では、渋柿のしぶ味を体験。児童からは「口がパサパサする」「口が変な感じ」といった感想があったが、その後に渋を抜いた柿を食べると「甘くておいしい」「もっといっぱい食べたい」など柿の美味しさを堪能しているようだった。実習では渋柿のへたを焼酎に浸けてから袋に入れ、密閉することで脱渋処理を行い、処理7

日後に渋かった柿がおいしい甘い柿に変わる不思議を味わった。

農業水産振興課では、このような取り組みを通じて柿に親しむことで消費拡大へ繋がることを期待している。



みんなで試食



アルコールを使った渋抜き体験

3. わかやま健康と食のフェスタ 2017 で柿料理を啓発

10月29日、伊都地方農業振興協議会（市町、JA、農業共済、振興局で構成）は和歌山ビッグウェーブで開催された「わかやま健康と食のフェスタ 2017」において、柿ミルクの試飲を実施した。

柿ミルクは、柿と牛乳をミキサーにかけ、よく混ぜ合わせたもので、柿に含まれる糖分によって砂糖を入れなくても十分に甘く、たねなし柿ではさらっとした味、富有柿では濃厚な味になる。今回は、あらかじめ皮を剥いて冷凍したたねなし柿を使用した。

試飲した来場者には柿と牛乳との組み合わせやおいしさが新鮮だったようで、「柿をたくさんもらった時に食べきれず困っていたが、このように冷凍して活用できることを初めて知った。家でもやってみたい。」「あっさりとしていて、おいしい。」「砂糖を使っていないとは思えない。柿だけで十分に甘くておいしい。」「甘柿だけでなく、渋を抜いた柿でもできるなら、一度試してみたい。」と好評だった。台風接近の悪天候にも関わらず多くの来場者があり、用意した柿と牛乳はすべて使い切り、400人以上の来場者に提供できた。

また、今回は高等教育機関コンソーシアム和歌山（和歌山信愛女子短期大学、和歌山大学、近畿大学生物理工学部）と連携し、学生たちが創作したあんぼ柿を使った新メニュー「米粉のシイワズ（柿丸子）」を開発し、試食として200食を無料提供してPRを行った。

今回の啓発が柿の消費拡大につながることを期待したい。



コンソーシアム和歌山のPR



柿ミルクの試飲で盛況



柿ミルク

4. 橋本市立高野口小学校で「柿の出前授業」を実施

10月12日、橋本市立高野口小学校に県職員と柿生産者が出向き、6年生47名に「柿の出前授業」を行った。

授業の前に橋本市の学校給食に野菜や果実を納入している出塔柏原営農研究会学校給食納入部会の芝崎光則氏と県果樹園芸課岩本課長から児童代表に柿を贈呈した。

授業では、振興局職員から県内の柿の生産状況等を説明した後、芝崎氏から柿の栽培について、実際使用しているハサミや収穫かご等の実物を見せながら、1年間の作業や収穫時の喜びについて説明した。児童からは「渋柿ってどんな味？」という質問があり、芝崎氏が持ってきた脱渋前の柿を試食するなど、子供たちの柿への関心が高まった様子だった。

出前授業の後、児童たちは包丁やピーラーを使って柿をむき、器にアイスクリームやホイップクリームとともに盛り付けて柿パフェを作った。児童には「甘くておいしい」と好評だった。

これをきっかけに、児童が地域の食材に興味を持ち、伊都地域の柿の消費につながることを期待する



児童に柿を贈呈



芝崎氏の講義



ピーラーを使って皮むき



柿パフェ完成！

IV 有田振興局

1. みかんの収穫期の労働災害防止キャンペーンを開催！

10月24日、有田市のありだ共選で、「みかん収穫時における労働災害防止キャンペーン」を御坊労働基準監督署、JAありだ ありだ共選、有田市、有田振興局が連携して開催した。

本キャンペーンでは、選果場へ出荷に来た農業者に農作業の安全を啓発するチラシとティッシュペーパーを配布し、農業者が出荷を終えて帰る際には口頭で安全の呼びかけを行った。

有田管内では、みかん収穫最盛期の12月は他の地域に比べ、樹や石垣からの転落、転倒などの事故が多いため、本キャンペーンの実施により、無事故で収穫期を乗り越えることのできる農業者が増えることを期待している。

今後も農業水産振興課では、管内での農作業に関する事故を減らすため、農作業安全の啓発活動に取り組んでいく。



有田市副市長による安全啓発
ティッシュペーパーの配布



声掛けによる安全啓発

2. 梅「露茜」栽培検討会を開催！

10月25日、広川町津木地区を中心に、地域活性化に向けた活動を行っている「津木地区寄合会」の部会の一つである露茜部会（部会長 古瀬達也）が露茜栽培検討会を開催し、部会員と関係者ら併せて11名が参加した。

現在、広川町津木地域では、11戸の生産者が93aの露茜栽培に取り組んでおり、今年度で植付け4年目となるが、生産量が増加しないことが課題となっている。

当日は県果樹試験場うめ研究所の大江主任研究員と城村主査研究員から、土壌診断に基づいた施肥方法や農薬散布、また、着果量を安定させるための人工授粉の方法などについて研修が行われた。また、普及指導員からは、今年、県内で見つかった「スモモ斑入果病」について説明を行った。

部会員からは、「うちの園地では石灰をどの程度やればいいのか?」、「人工授粉もそうだが、開花時期が合う受粉樹が必要ではないのか?」など、熱心に意見交換が行われた。

農業水産振興課では、今後もうめ研究所等と連携し、「露茜」の剪定講習会や園地巡回を実施するなど栽培指導を行っていく。



検討会の様子

3. 保田小学校児童がみかんの収穫体験

有田市立保田小学校の3年生（52名）が、地域の特産物である「みかん」の栽培を学ぼうと10月30日に収穫体験を行った。有田市農業士会（会長 松本弘夫）の主催で平成13年度から毎年開催している。児童6～8名に農業士または農業水産振興課職員1名が指導にあたり、美味しいみかんの見分け方、収穫した果実は「ホゾ」が高くなならないように切り直すことなどを教わった後、全校児童が給食で食べる分の果実と、ジュースを絞って飲む分を合わせて1人10個ずつ収穫した。児童達は教わった通りに美味しそうなみかんをじっくり選びながら、楽しそうに収穫していた。

収穫後は、光センサー式の糖酸分析機を使って1人ずつみかんの糖度を調べた後、1人2個ずつをジューサーで搾り、ミカンジュースで乾杯した。ジュースを飲んだ児童からは「甘くてすごくおいしい」「もっと飲みたい」など感想が聞かれた。



みかんの収穫体験



ミカンジュース絞りに挑戦

V 日高振興局

1. 印南町農業士らによる稲作体験を実施

印南町農業士会（尾曾紀文会長）は食育活動の一環として、毎年、地域の農家らと協力して印南町立稲原小学校で稲作体験を実施している。

本年度も、3年生から6年生までの53名を対象に、5月に播種作業を、6月に田植えを終え、9月25日に稲刈り、10月4日に脱穀作業を行った。

稲刈りは、農業士が指導を行いながら全員で鎌を使って刈り取り、まとめて縛った後、6年生がはぎ掛けを行った。初めて体験する3年生は、始めは「うまく刈れない」と難しそうにしていたが、慣れてくると楽しそうに作業していた。また、途中でマムシが現れると、皆興味津々になって見ていた。

脱穀作業では、掛けていた稲を外し、農業士の指導の下、ハーベスターを使って脱穀した。

今後は1月に餅つき大会を行い、できたお米を全校で味わう予定である。印南町農業士会では、引き続き農作業を通じた食育を推進するとともに、農業水産振興課も支援していく。



稲刈りの様子



現れたマムシに興味津々の児童たち



はぎ掛けする6年生



脱穀作業の様子

2. 日高川町新果樹研究会が現地研修会を実施

日高川町新果樹研究会（坂田猛会長）は10月10日に葉面散布等の資材を販売するロイヤルインダストリーズ株式会社の瀬片元治技術部長を招き研修会を開催した。この研修会は5月に引き続き本年2回目となる。

日高川町農村環境改善センターで行われた座学では本年産の不成りの原因を考察し、不作樹の今後の管理方法等を話された。その後会員の園地を回り、結果母枝を増やすための剪定法や摘葉法等について学んだ。冬期にもう一度研修会を行う予定である。



研修会の様子

3. 由良町農業士会が町内小学校・こども園に「ゆら早生」を贈呈

10月17日、由良町農業士会（杉谷哲哉会長）が町内小学校3校・由良こども園の全校児童・園児に町の特産品である「ゆら早生」を贈呈した。この活動は、町内の子どもに食を通じて「ゆら早生」の特性と地産地消の素晴らしさを学んでもらうことを目的としており、今年で5年目になる。

当日は会員4名が2班に分かれ、それぞれの学校を訪問した。

衣奈小学校では、全校集会で贈呈式とゆら早生についてのお話会を実施し、同会会員の川口拓洋氏が説明を行った。川口氏は、ゆら早生は30年ほど前に由良町で発見され、極早生なので青みが残っているが、甘くておいしく、中の袋が薄くて食べやすいことが特徴だと話した。

子どもたちは、「今年も楽しみにしていた」、「ゆら早生は本当においしいので嬉しい」と喜んでおり、会員も実施してよかったと手応えを感じていた。



衣奈小学校でお話（川口氏）



由良小学校で贈呈（杉谷会長）

4. 日高地方生活研究グループ連絡協議会が 「日高の海と山を味わう会」を開催！

10月26日、日高地方生活研究グループ連絡協議会（後藤明子会長）が、印南町公民館大ホールにて、日高地方の地域資源を活用し、郷土料理の伝承やジビエに対する理解醸成を図ることを目的に、「日高の海と山を味わう会」を開催し、会員・関係者合わせて130名が出席した。郷土料理やジビエ料理を持ち寄る「味交換会」は昭和61年から開催されており、今年は3年ぶりの開催となった。

今回の「日高の海と山を味わう会」は、生活研究グループだけでなく、昨年交流を行った日高地方で活動する「おさかなママさん」にも参画してもらい、山の幸のみならず海の幸を使った料理も出品され、合計38品の料理がテーブルをにぎわせた。

また、日高地方生研グループは平成25年にシカ肉の消費拡大を目的に「シカレディース」を結成しており、今年は学校給食にも取り入れやすいメニューを作ってみようと、シカ肉ミンチを使った料理を3品出品した。

各支部の会員が料理の説明を行った後、全員で出品料理を試食した。出席者からは「地域資源を活用したこれらの料理を是非販売してほしい」、「子どもの頃を思い出す懐かしい味をこれからも伝えていってほしい」など貴重な意見が聞かれた。

また、会員からは、「シカ肉ミンチを使った料理はとても食べやすく、ジビエだとわからない」という意見や、おさかなママさんからは「交流をこれからも続けていきたい」という声があり、有意義な時間を過ごすことができた。

試食会の後には、NPO法人フードバンク和歌山の古賀敬教氏から「フードバンク活動について」と題して講演をいただいた。会員は、フードバンクの取り組みや御坊こども食堂についての活動内容を聞いて、「食べ物大切さを再確認した」と感想を述べていた。



たくさんの出品料理



料理の説明を行う会員



古賀氏による講演

5. 美浜町立和田小学校で梅・みかんの出前授業を実施

10月31日、美浜町立和田小学校の3年生33名を対象に、梅とみかんについての出前授業を行った。和田小学校の3年生は総合学習の時間に和歌山県のくだものについて学んでおり、農家の方から話を聞きたいとの学校からの要望により実施された。

講師は梅とみかんを栽培している印南町生活・営農改善グループ連絡協議会の坂口久美子氏が務めた。

始めに、農業水産振興課から生産状況等について説明した後、坂口氏が年間の作業、農業の大変さ・喜びについて話をした。

お話の後、坂口氏の作った梅ジュースを試飲し、みかんと梅干しの試食も行った。

子どもたちは、「摘果という作業を始めて知った」、「梅干しは嫌いだったが今日食べられるようになった」、「牛乳で割った梅ジュースを飲むのは初めてだったがおいしい」との声を聞くことができ、坂口氏も「喜んでもらえてこちらもやる気が出る」と感想を述べていた。



お話する坂口氏



授業の様子

VI 西牟婁振興局

1. 西牟婁地方生活研究グループ連絡協議会がリーダー研修会を開催

10月4日、上富田町農村環境改善センターで西牟婁地方生活研究グループ連絡協議会(会長 手谷セイコ)が、地域特産物の山菜や水産物の調理方法をより広く普及させることを目的に研修会を開催し、26名が参加した。

料理の献立は、イタドリの甘酢和え、たけのこの佃煮、ひじきのふりかけ、じゃこの佃煮、生姜ごはん、さつまいもと油揚げの味噌汁で、講師は各料理が得意な参加者が行った。

イタドリは西牟婁地方で親しみのある山菜で、4～5月に採取した若芽を塩漬け冷凍保存し、年間を通して料理に使われている。調理方法は各家庭で独自のレシピがあるが、今回はその中でも特に上手な方の調理方法について学んだ。

また、普段水産物の料理について馴染みの少ない山間地の参加者は、漁家に伝わるじゃこやひじきのレシピも学ぶことができた。

さらに、加工品販売を行っている方からは、真空包装機を用いて、たけのこの佃煮の真空包装方法を教わった。

参加者からは「実際に調理方法を教えてもらうことで、本ではわからなかったコツがわかった」、「すべての料理がおいしかった」などの感想があった。山菜料理に馴染みのある参加者が多いなか、山菜だけでなく水産物の調理方法についてもより知識を深めることができた。



料理講習の様子



たけのこの佃煮の真空包装

2. 茶の秋整枝研修会を開催

10月27日、田辺市本宮町の本宮大社茶園および川湯地区茶園にて秋整枝研修会を開催した。参加者は生産者、本宮大社職員、JAみくまの職員で、講師は農業水産振興課職員が担当した。

本宮大社茶園では、畝ごとに夏秋梢の生育状況を確認し、どの高さで整枝すべきかを指導した。また、秋整枝作業を終えた川湯地区茶園では、整枝の高さが適切であるか確認を行い、今後の栽培方法について助言した。

秋整枝は整枝する高さにより一番茶の品質や収量に大きく影響する。また、伸びた夏秋梢を何センチ残して刈れば良いというものでなく、枝数や節間、葉相や葉の大きさなどを考慮

しながら園の状態に併せて整枝しなければならないことから、経験も必要である。

参加者には、栽培に習熟していない生産者もいるため、今後も栽培研修会を継続して開催していく。



整枝作業



整枝状況の確認

3. 女性起業支援研修会を開催

10月31日、田辺市民総合センターにおいて、農業水産振興課主催による野菜や果物の素材を活かした調理方法の研修会を開催し、起業活動に関心のある女性18名が参加した。「野菜と果物の美味しい食べ方」と題し、みなべ町の料理研究家の吉野健一氏が講師を務めた。

最初に、吉野氏が考案した地元野菜と果物を使った「梅のチーズハンバーグ」、「冬野菜とベーコンの飛鳥煮」、「冬瓜のそぼろ汁」、「みかんのプリン」の4品を、コツを説明しながら調理を実演してもらった。その後、参加者はグループに分かれて調理し、自分が作った料理を試食した。また、講師からは野菜の保存法についても講話があった。

参加者からは「野菜を多く使った料理は生産者が起業していくうえで知りたかったことなので良かった」、「どの料理もとても美味しく、農家レストランをしているのですぐにメニューとして取り入れたい」、「今日教えていただいた料理をアレンジして、弁当にして出したい」等の感想があり、起業している如何に関わらず、良い刺激になったようであった。

なお、来年1月には「ジビエの特性を活かした料理法」について第2回目の研修会を開催する予定である。



料理の実演する吉野氏（右）



参加者が調理する様子



出来上がった料理

Ⅶ 東牟婁振興局

1. 重点プロジェクト【6次産業化による地域の活性化】

～三津ノ地域活性化協議会が加工業務用葉ネギ試験圃を設置～

10月11日、12日、三津ノ地域活性化協議会（会長 下阪殖保）及びJAみくまの、農業水産振興課は、新規導入作物を検討するため、新宮市熊野川町棕ノ井に加工業務用葉ネギ試験圃10aを設置した。

今回、同協議会が育苗した苗と購入苗100トレイ（20,000株）を乗用移植機で植え付け、発芽抑制型の除草剤を散布した。同協議会員らは乗用移植機を初めて利用し、「機械作業の操作が簡単」、「畝をもっと綺麗に作れたら植付け精度も向上しそう」などの声が聞かれた。

定植した葉ネギの収穫は12月と3月の2回を予定している。



乗用移植機



定植

2. 農業機械安全研修

10月12日、農業水産振興課は、那智勝浦町太田においてコンバインを用いた農業機械安全研修を開催し、JAみくまの農業女子等4名が参加した。地域農業士の太田喜文氏が講師となり、コンバインの機械操作、機能、危険個所や危険事項等について説明した。その後、太田氏が横で機械操作を指導しながら、実際に受講者がコンバインを操作し、稲刈りを行った。

受講者は、不慣れな機械操作に苦戦しながらも、太田氏の指導の下、コンバインを操作し、時間がたつにつれて機械操作も上達していった。受講者からは、「機械の作業速度調節はどのようにするのか」、「緊急時に機械を止める方法はどのようにするのか」など多くの質問が出た。



太田氏の説明を受ける受講者



コンバインを操作する受講者

Ⅷ 農林大学校

1. 農学部 1 年生が試験場研修と販売研修を実施

10月2日から6日まで5日間、1年生が学科別に「試験場研修」と「販売研修」を行った。

園芸学科の学生は「試験場研修」として、果樹コース・野菜コース・花きコースの専攻ごとに分かれ、農業試験場、果樹試験場、果樹試験場かき・もも研究所、果樹試験場うめ研究所で行われている栽培技術や品種改良、病虫害対策などの研究内容の説明を受けた後、研究員の調査補助や、ほ場の管理作業を体験した。研究員と顔見知りになり、最先端の研究についても触れることができ、貴重な体験となった。

また、アグリビジネス学科の学生は「販売研修」として、各学生が伊都・那賀・有田地区の農産物直売所のお世話になり、接客の仕方や商品の扱い方などについて学んだ。お店の方が心がけていることを肌で感じる事ができ、貴重な体験をすることができた。

今後は、これらの経験で培った知識や技術を日頃の学習に活かしてもらいたい。



農業試験場での技術研修



JAファーマーズマーケットでの販売研修

IX 農林大学校 就農支援センター

1. 平成 29 年度技術修得研修（第 2 班）開講

10 月 16 日、17 名の受講生を迎えて技術修得研修（第 2 班）が開講した。

研修生は、翌年 2 月までの 5 ヶ月間、全 25 日間に講義と実習により農業の基礎的な知識や技術を学び、就農に必要な実践力を身につけていく。

午前中の開講式に引き続き、午後は、輪ギクの収穫・出荷調整について実習を行った。研修修了後には、就農に近づけるよう充実した研修カリキュラムで応援していく。



開講式の様子



実習の様子

2. 平成 29 年度ウイークエンド農業塾 農業入門コース（第 2 班）閉講

ウイークエンド農業塾農業入門コース（第 2 班）が 10 月 29 日に閉講し、受講者 10 人全員が研修を修了した。

受講者は、全 10 日間の日程で肥料や農薬など農業全般に関わる基礎知識や、果樹・野菜・花きの栽培について講義と実習を通じて学んだ。修了者の今後の農業への携わり方は、実家の農業を継ぐことになっている方、現在は仕事をしているが将来的に農業をしたいという方、家庭菜園の充実や直売所への出荷をしてみたいという方など様々である。



閉講式の様子

普及活動現地情報 発行・編集

和歌山県農林水産部経営支援課	TEL073-441-2931	FAX073-424-0470
海草振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL073-441-3377	FAX073-441-3476
那賀振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-61-0025	FAX0736-61-1514
伊都振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-33-4930	FAX0736-33-4931
有田振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0737-64-1273	FAX0736-64-1217
日高振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0738-24-2930	FAX0738-24-2901
西牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0739-26-7941	FAX0739-26-7945
東牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0735-21-9632	FAX0735-21-9642
和歌山県農林大学校	TEL0736-22-2203	FAX0736-22-7402
和歌山県農林大学校就農支援センター	TEL0738-23-3488	FAX0738-23-3489